

友情の絆がくれた光

李宥炅（高等部 最優秀賞）

こんにちは。保聖女子高校の李宥炅と申します。皆さんは友達と言えどどんなことが思い浮かびますか。一緒に勉強したこと、些細なことで一日中話したこと、喧嘩したことなど、いろいろなことが思い浮かぶと思います。その中で、私が一番心に残るのは、いつも私の味方になってくれたことです。

今日、私は、私に力になってくれた友情についてお話したいと思います。高校1年生になって、私が始めて感じたのは、「真の友」はそう簡単にはなれないということでした。高校に入ってから、受験の競争が激しくなり、友達ができて、相手に勝たなければならないという競争心で、どうしても「真の友」と思うことができませんでした。

このように考えていた私にとって、友達は、いても、いなくても構わない存在と思うようになったのは当然のことかも知れません。その時の私は、クラスで親しい、世間でいう「友達」という人ができて、友達を信じ、頼りにはしていませんでした。

そんな私が、友達についての考えを変えたのは3年生に上がる冬のことです。

冬休みの補習授業の後、先生と進路について相談をしたことがあります。当時、私は日本語を勉強して大学に進学をしたいとは思っていたものの、まだ希望する大学と将来への確信がなく、3年生になったという重圧感で、とても不安でした。

そのような不安を持ち、先生に希望大学と私が思っていたことを話すと、先生は、「これまでの成績から見ればそれは無理だ」と言い、また、「日本語だけで大学に入ることはそんな簡単なもの

ではない、学校の授業に真面目にきなさい」とおっしゃいました。その時、私は、先生に私の夢を、私の未来を、無視されたと思いました。クラスに戻った私は、自分が認められなかったことに対する悔しさと寂しさで涙がでました。その時、私の味方になってくれたのは友達でした。話を聞いてくれた彼女は、私を慰め、落ち着かせた後、先生のところに行きました。そして、彼女は自分が今まで見てきた私について先生に話し、先生を説得しました。

今まで、私は心から友達を受け入れず、友達であっても、私のことを分かっていると思っていなかった。しかし、彼女は私のことをちゃんと見て、分かってくれたのです。その時、私が今まで抱いていた不安感が吹っ飛ばされました。そして、やる気と勇気が湧いてきました。私が今日、ここでスピーチができたのも、私のことを見てくれた、信じてくれた友達がいたからだと思います。

共和政ローマ期の哲学者マルクス・トゥッリウス・キケロが残した「人生から友情を除けば、世界から太陽を除くにひとし」という言葉は、友情をよく表現したと思います。

「独りで思い込んでいた悲しさや悔しさの暗い思いを、友情の光が吹っ飛ばしてくれる。」

そんな大切なものをそれまで気づいていなかったのは残念です。今は、辛い受験勉強も心の通じ合う友達と励まし合い、乗り越えています。皆さんはどうですか。自分のことばかり思い込み、友達を疎かにしていませんか。

友達との絆を、友情を大切にしましょう。きっと、いつでも皆さんの味方になってくれるでしょう。ご清聴ありがとうございました。

あなたは未来の存在を信じますか

権ミンジ（高等部 金賞）

あなたは未来の存在を信じますか。
私は最近コード・ブルーという日本の医学ドラマを見ながら、こう言う疑問が湧いてきました。このドラマは急な事故が起きた時、医師がヘリコプターで患者の元へ向かう、ドクターヘリを素材にしています。ドクターヘリの助けを受けたほとんどの患者はいきなり死の危機に直面します。だからこのドラマでは自分の行動に後悔する人がたくさん出ます。
例えば、ある家族は結婚記念日に高速道路で事故に巻き込まれてお互いの生死さえ分からなくなります。朝、夫に愚痴をこぼした妻は、そのことでとても後悔します。また、飛行機事故の現場では重傷を負った親をまの当たりにし、結婚のことでお父さんと言ひ争ひひどいことを言ってしまうと後悔する娘もいます。どうしてあんなにひどいことを言ったんだらう、どうしてもっと優しくしてくれなかったんだらう、どうして明日やっても大丈夫と思ったんだらう。このドラマの多くの人はそう後悔します。
ここで、皆さんにもう一つ、お聞きしたいことがあります。あなたが今やりたいことは何ですか。私がこのドラマを見て一番しみじみ思ったのは、未来は確信できないものだということです。今日は元気ですが、明日は車に引かれるかも、山登りで落石にあうかも、もしかしたら眠りについたまま翌日の朝に永遠に目が覚めなくなるかも知れません。われわれは、明日どうなるか誰もわからないということはよく知っている反面、

未来が訪れることを信じています。そのため、照れくさいとか、直接言葉で伝えなくても伝えられると思ひ、今言いたいことややりたいことを明日に持ち越します。今日しなくても、明日、明後日、そしていつでもやろうと思えば出来るものだと思ってしまうのです。しかし、明日の存在は誰にも分かりません。「伝えられるとき伝えておかないと後悔する」。これはコードブルーの主人公の台詞です。
「朝怒ってごめんね」、「いつもありがとう」、「愛してる」。伝えたかったけど伝えなかった言葉が皆さんにもあるでしょう。「もう一度スキーが滑りたい」、「もう一度抱きしめてあげたい」、「もう一度一緒に散歩したい」、やりたかったけどやれなかったことがあるでしょう。私はドラマ「コードブルー」で後悔する人々を見て、やりたいことは出来る時にやっておくべきではないか、「やりたいこと」は「やるべきこと」ではないかと思ひました。結局今、私たちが「やるべきこと」は、「やりたいことを持ち越せずに行っていくこと」ではないでしょうか。
未来のために今を生きるのではなく、また今出来ることを未来に持ち越すことではなく、人は今を生きることに最善を尽くしていくべきではないでしょうか。
最後に皆さんに一つの質問で、このスピーチを終わらせていただきます。
「あなたが、今やるべきことは何ですか。」
ご清聴ありがとうございました。

幸運は前向きな人の味方

梁スルギ（高等部 銀賞）

皆さん、こんにちは。

私はソンジョン観光高校3年生のヤン・スルギと申します。

私は、多くの人々が幸運について偏見を持っているように思います。私が思っている幸運とは、ただ運がいいというのではなく、人々の弛みない努力によって訪れてくるものであると思うからです。また、前向きな人とネガティブな人とは、幸運に対する考えが違ふと思います。

前向きな人は、いくら辛い状況でも、自分は幸運に恵まれていると信じ、幸運を自分の努力の「正当な対価」あるいは「報償」であると思うのです。だから、最善を尽くして、その結果が良かったら、幸運があったと思うのだと思います。しかし、ネガティブな人は、豊かな環境に恵まれていても、幸運があるとは思わず、社会が自分の努力に対して「正当な対価」を払ってくれないと思うのです。

幸運に対するこのような差は、自分の心から生まれるものではないでしょうか。前向きな人は、なにごとでも前向きに取り組むので、いくら辛い状況でも、自分は幸運に恵まれていると信じていることができます。そして、その前向きな取り組みはリーダーシップにつながり、さらにリーダーシップのある人には多くの人々が集まるようになります。それは人間関係や社会性が良くなることにもつながるものだと思います。よい人間関係や社会性も前向きな人に与えられる幸運ではないでしょうか。

ネガティブな人が必ず社会性がないとは言えませんが、一般的にはネガティブな人より前向きな人が好まれると思います。また、些細なことに満足せず、大きいことばかり欲しがる人より、ほんの些細なことでも感謝するありがたさを感じる人に人は従うものではないでしょうか。

すなわち、前向きな人にはどのような状況も幸運になり、ネガティブな人にはどのような状況でも不幸になるということです。例えば、最近、話題になっているチョンホ食品のキム・ヨンシク社長の話をご存じですか。釜山で現金保有トップ100人の中に入るぐらいの金持ちだったのですが、自分の専門ではないところに手をかけてしまい、一瞬のうちに借金の多い人100人に入ってしまったそうです。彼はお金持ちから急に貧乏な生活をする事になりました。お金がないから食事も生活もろくにできない状況でしたが、彼は失敗を恐れず、何事でも前向きに取り組み、年商500億ウォンを超えるチョンホ食品の社長になったのです。それで、貧乏な生活から豊かな生活に戻ることができました。私はキムヨンシク社長が、失敗を恐れず、前向きに挑戦したからこそ、彼に幸運が訪れたと思います。そして、キム・ヨンシク社長の話を聞いて、「成功は自信を持つてる人に挑戦権を与える」と言う言葉が思い浮かびました。

皆さんは、前向きな人ですか。そして、幸運についてどう思いますか。世の中には、キム・ヨンシク社長のように前向きに考え、前向きな人になりたいと思っている人が多いと思います。

皆さんもこれからは、幸運が訪れるのを待つのではなく、自分から幸運を呼ぶ人になったらどうでしょうか。皆さん、失敗をしても失望や挫折せず、その失敗は成功のための第一歩であると思ひましょう。

ご清聴ありがとうございます。

IT化に伴う、我々の規範確立へと。

具本承（高等部 銅賞）

皆様、初めまして、私は金海高校に在学中の具本承と申します。

皆様はIT化について、どう考えていますか。忙しい毎日の中で、IT化について深く考えたことはないかもしれません。勿論、私もそうでした。ところが先日、普段親しくしている知り合いが、「予想以上の速度でIT化が進んでいる今、我々はそれに伴う、ITに対する規範を確立していない。このままIT化が進めば、その影響で今以上に深刻な問題が勃発するかもしれないんだ。」と、私に言いました。

確かに、今日、IT化が進んだため、ITは、私たちの生活をより便利にする、という良い面も多くあります。だが、青少年が猥褻、また暴力的な動画を簡単に手に入れるようになったり、著作憲法によって、保護されなければならない、映画、小説、漫画、そして音楽などが、ネット上にばら撒かれていたり、もしくはITにはまり、子供たちが家でゲームばかりして友達と遊ばなくなったり、外で友達に会っても携帯電話のメールに没頭していたり、ITは様々な方面で、社会や生活に悪影響を与えているのです。しかし、だからといって、ITから背を向け、ITを使わないわけにはいかないのも事実です。なぜなら、もはやITは私たちの生活の一部になってしまったからです。だから、私たちは、今起こっている「IT問題」に対して、対策を立てること、また根本的な「IT規範」を確立することを、第一にすべきだと思います。

最近、私はニュースで「少年犯罪」や「ネット中毒」という言葉をよく耳にします。ネット中毒はともかく、少年犯罪は、私が今主題としているITと、何の関係があるのか、と疑問に思う方もおられるでしょう。しかし、私が思うには、少年犯罪が増え続けている原因の一つは、ITだと思います。その

理由は、先言った、猥褻で暴力的な動画の影響を受けたせいだと思うからです。実際、精神的に成熟している大人たちより、成熟していない子供たちの方が、そのような動画の影響をもっと受けやすいのです。だから、そのような動画は厳しく取り締まる必要がありますが、急速なIT化の進展に追いつけず、取締りの力はまだ、弱いのです。しかし、ずっとこのままの状態を放って置くと、一体どうなるのでしょうか。おそらく、国を支えていく子供たちは、ITの良くない面から、悪影響を受けながら成長し、大人になった子どもたちは、国を滅亡の危機に陥らせるかもしれません。

私が大げさに考えている面もあるでしょう。しかし、私の知り合いが言っていた「深刻な問題」とは、こういう問題ではないでしょうか。だから、私たちは今からでも、IT問題に対して、適切な対策を検討し合い、我々の中に正しいIT規範を確立しなければならないのです。今、行う努力は、私たちをもっと良い未来へつなげてくれると、私は信じます。

ご視聴、ありがとうございました。

ゆとりと張り

丁允卿（高等部 優秀賞）

話の前に、すこし皆さんに私の韓国人の友だちと日本人の友だちを紹介しようと思います。

まず、私の韓国人の友だちは受験勉強で目が回るほどの日々を送っています。職に就きやすい経営大学を志している彼女にニュースでよく見かける非正規職員の話は高みの見物ではありません。では、次に日本人の友だちを紹介しましょう。放課後、部活の友だちとギターをならす彼に「あなたは将来、どういう仕事をしたいの？」と聞きました。彼の答えは「バイトでいいんじゃない？」「いざという時はどうするの？」ともう一度聞いたら、「親がいるさ。」と返事がかえってきます。彼はフリーターで暮していくつもりだそうです。

皆さんはどちらのほうが幸せだと思いますか。残念ながら私には両方、幸せそうに見えません。激しい競争の中で韓国人の友だちはいつも不安を抱えています。自分の夢を追い掛けるより、いいレベルの大学に進んでいい給料がもらえる職場をもつのが彼女の唯一の目標です。日本人の友だちの場合はどうでしょう。フリーターで進路を決めてしまったこの友だちは何事もテキトーテキトー、今が楽であれば万事休すです。この二人の友だちを通じて、韓日社会の現在と未来を理解してみようと思います。

最近の韓国社会は「スペック」というものに凝っています。「スペック」はライセンスなどの能力を客観的に表す目印のことです。「スペック」自体は決して悪いものではありません。「スペック」を押し付ける社会がいけないのです。そのせいか韓国の若者たちにとって社会のために努力したり浪漫や夢を求めるのは贅沢のようなものです。日本の場合はどうでしょう。三浦展の「下流社会」の出版以来、「下流」は日本を理解する一つのキーワードとなりました。教育を受けてお

らず、労働もしない彼らはニート族、フリーター族になって食べていきます。ひきこもりになることもあります。それぞれの社会からの視線も興味深いです。韓国の既成世代はたくさんスペックは人材を養えると言います。しかし、人材はおろか本人たちは道の見えない真っ暗いトンネルの中で迷っています。OECD先進国の中で韓国の20代と30代の自殺率が一番高いそうです。これがスペックと無関係と言えるのでしょうか。日本の既成世代にとっては、下流世代は心配の種です。しかし、彼らの思い煩いに反して下流世代は自分のライフスタイルに満足しています。これまで生活にこれといった不自由な思いをしたことがないからでしょう。

このように二つの社会から見られる現象は違うようですが、一脈相通ずる所があります。どんなに頑張っても認められない社会、頑張る力をなくした社会。微妙な共通点を見つけることができましたか。機会を与えない固まった社会の中で、無限なる可能性をもつエンジンはさびついています。命がけでスペックを積んできた韓国の若者たちは結局、88万ウォン世代になって戻ってきました。スペック世代が感じた屈辱感と空しさは下流世代につながる可能性もあります。おとし、日本国際交流基金の推進の基、韓日の大学生らが一堂に集まって、この問題を話し合ったそうです。こうやってお互いにつながりを結んでネットワークを築くことは健康な韓日社会への第一歩になるはずですが。出口を見つけるためにはウリ、共という価値観を持って集まり、持ちつ持たれつ引っ張り合える場所と経験が大事です。両国の若者たちにとって、韓国社会に必要なのはすこしのゆとり、日本社会に必要なのはすこしの張りなのかもしれません。

真のボランティアとは

邊漢榮（中等部 金賞）

皆さん、こんにちは。炭筏中学校3年生の邊漢榮と申します。最近、テレビを見れば、俳優・歌手・タレントなどの有名人たちの色んなボランティア活動がよく話題になっていますが、皆さんもボランティアをしてみたことがありますか。私はほぼ最近まで、ボランティアはただ学校で義務づけられたボランティア活動時間を満たすための時間潰しに過ぎないと思い、そういう風にやってきました。しかしこの間のある経験をきっかけに、真のボランティアとは何だろうかと考えてみる事ができたのです。

先月、私は「障害人と共にする旅」というプログラムにボランティアとして参加したことがあります。参加者たちは一人当たり一人ずつ担当し、もちろん私も私の年頃の学生さんとパートナーになりました。一緒にご飯を食べながら食事の面倒を看たり、部屋の片付けを手伝ったり、一緒にリハビリプログラムにも参加しました。

ところがその日、一緒にボランティアとして参加した何人かの女子中学生たちが、障害人を手伝うどころか、遊んだり喋ったりばかりだったのを見て思いました。体の不自由な人の手伝いに来て、敢えて体が不自由ではないことを威張るような姿は、彼らの目にはどう映ったのでしょうか。彼女たちに声をかけてみたら、「学校の先生に成績のため責められて来ただけで、別にやり甲斐なんか期待していない」と言われました。私は何となく私のパートナーに心から申し訳ない気持ちでいっぱいになり

ました。そして今まで私も学校での点数を取ることばかりを考えてボランティア活動をしてきたのではないかと、深く反省しました。

そして私は誰かを手伝うということについても、今までとは少し違う視線で見ようになりました。今までは、「ボランティア活動」の意味が、「私たちにできる限りの力や物を必要としている人々に提供すること」だと思っていましたが、今回の経験を通じて、「ボランティア活動」ということは、彼らが「手伝ってもらっている」と感じられないほど彼らと自然に交わって生活をする事、あるいはその中で少しの力や微笑みをよここんで添えることではないかと思いつきました。

また、私は今回の経験で、ボランティア活動ほど人の心を満たしてあげられる事はないと感じました。そのうえ、そういった過程を通じて、相手だけではなく、自分の心も満たされるということにも気がつきました。まるでテーブルの向こうにいる人にスプーンを渡すように、手伝う方も手伝ってもらう方も何かをしてあげたりもらったりするのではなく、「共にする」と感じる事が真のボランティアではないかと思います。皆さん、今私達にできるボランティア活動は山ほどあります。ただ、それを見つけて、思いっきり現場に向かう最初の一步はあなたの選択次第です。今、あなたの温もりを伝えてみませんか。

どうも、ありがとうございました。

グローバル時代に持つべき心構え

朴智璣（中等部 銀賞）

今日は。アンソン女子中学校3年生、バジスルです。

さっそくですが、皆さんは、世界には今いくつの国家があるのかご存じでしょうか。国際連合UNの統計によると、およそ253カ国の国家があるそうです。今の時代はこれほど多くの国々が人も物も文化も何もかもが頻繁に行き来しています。言わば、グローバル時代なんです。そこで、私はこの時代をいきている私たちが持つべき心構えについて考えてみようと思います。

小学校の時、韓国と日本のさまざまな違いを紹介する本を何冊か読んだことがあります。特に話し方の差が印象深かったです。例えば、買い物の際、日本人は品物が気に入らない場合でも誉め称えながら買わないのに比べ、韓国人は一気に断ることが多くあるようです。遠回りの話し方文化と直接的な言い方文化が分かりました。すぐ隣の国同士がこんなにも違うのだから、外見から違う東西洋となったらますますでしょう。うちの学校にアメリカ人の先生がいます。ある週末、校長先生が道で自転車に乗っているアメリカ人の先生にばったりゆき会って嬉しく挨拶したそうです。彼は笑顔で「Hi」と言い、あとはすれ違ってそのまま自分の道を行ってしまいました。韓国ではこの場合、相手が職場の上司でもあるし、しかも年もずっと上ですから、自転車から降りてちゃんと挨拶を交わすのが普通です。これは挨拶のしかたが国によって違うことが分かっていないと、「失礼だ」などと誤解しかねないとおもいました。

ところで、近来、交通通信が飛躍的に発達してきました。おかげで、外国との交流のチャンスがますます多くなり、中でも海外の映画やドラマの盛んな交流はたやすくよその国の生活が見ら

れるようにしました。ですが、それがあまりにも急速な交流と接触ですから、異文化にたいしての理解のしあいは不十分のままです。このため他文化をむやみに批判したりすることもよくあります。

ある有名なハリウットの女優が韓国人の犬食いは野蛮的な行為だと批難しました。もちろん、家族の一員として飼っているかわいいペットの犬を食用にするとはい野蛮的に見えざるをえないことなのですが、この風習は昔からで韓国の自然環境から生まれたことなんです。韓国は昔、野原の草不足で羊が飼えなく、豚も飼いきい気候でしたので、比較的飼いやすい犬を飼って蛋白質の不足を補ってきたのです。

どんな文化でもそれなりの歴史や話し、存在価値はあるものだと思います。それをやたらに蔑視したり、排斥すること、また、中華思想や人種差別、ヒトラーのユダヤ人虐殺などは自文化優越主義に基づいた考えで、これはグローバル時代の今の私たちがなおさら捨てるべき思想でしょう。

これに反して外国のものであれば何でも問わず受け入れ、自分固有のものは無視したりする文化事大主義も捨てなければならない態度です。昔、中国の清朝は新しい王朝をたてるにあたってただ政治的な権力を奪うことのみならず、前の明朝の百姓に自分たちの文化を植えたからこそ完全に滅ぼすことができたそうです。

文化が揺れ動いたら国が揺れ動き、個人の価値観の根も迷うことになります。

これからも私たちはもっと多くのもっとさまざまな文化に出会っていくでしょう。これらの文化に自文化優越主義も文化事大主義もあってはならないことで、文化はありのままでもう私たち皆の大事な遺産ではないでしょうか。。

ツイッターなう

申宇哲（中等部 銅賞）

皆さんの中でツイッターをやっている方はおられますか？私もツイッターを一度やってみたいのですが、スマートフォンもないし、パソコンはゲームばかりしたせいで、親に永久封印されしまいやりたくても出来ない状態です。

しかしそれでも父やほかの人達のツイッターをこそこそぞいたりしてしていると、面白いことに気づきました。

その一つめはオープンな力です。ツイッターは話というよりもただ自分の考えや感情をつぶやくものです。皆さんも良くご存じの小説家 村上春樹さんは「僕がハンサムなのは僕の罪じゃない」のように考えていても普段は口にしないようなとても個人的な考えを語っていました。彼だけでなく、多くの人が他人に対して素直なありのままの自分をさらし出していました。私はこのようなオープンな力こそがツイッターが全世界人に愛されている理由ではないかと考えたんです。

二つめに感じたのは単純さの魅力です。よくツイッターのことを「140字の魔法」といいます。しかし、多くの人がツイッターの最大文字数である140字も使うことが無く、一言だけつぶやくと言うことに気づきました。「腹減った。何か食う。」「あー雨あがった。」まあ、こんなもんです。そう。ツイッターのもう一つの力はこの単純さではないかと思いました。単純なために気楽につぶやけるようです。

三つめは変化を起こす力です。まず、ツイッターは言葉の変化を起こしています。ツイッターの上の方に書かれてある。「いまどうしてる？」のいまが

英語の「ナウ」に変えて使われていました。例えば、「京都なう」「ラーメン食ってるなう」のように使われています。またライフスタイルまで変化させていました。「大阪なう。おいしい食堂教えてください。」と言うつぶやきにたくさんの店の名前が返信されていきました。ツイッターは情報検索の方法の変化を提供していたのです。

最後に感じたもの、それはつながる力です。私の父のツイッターは11人の人としかつながれてませんが、村上春樹さんみたいな方は7万に近い人達とつながれています。このようなつながりは人と人だけのものではありませんでした。人とボット、人とニュース、人とUGCまで、まるではない迷路のようにつながれていました。このような短い言葉を大きな情報にしていました。こういうつながりがなく、単に独りだけの140字の単純さで完結してしまうものだったとしたら、今のように多くの人に愛されなかったと思います。

私はこんな、オープンさ、単純さ、変化を生み出す力、つながりというツイッターの魅力は未来社会のキーワードだと思います。心を開いて、単純な気持ちのまま、変化を恐れず交流をつなぐのは個人だけでなく、これは国家と国家の間でも必要なことではないかと思います。

今年が韓日併合の100年だとお聞きしました。ツイッターの象徴である青い鳥のような希望にみちた韓日関係の未来のために心をひらいて、変化を恐れず、お互いに交流して行くべきだと思います。

ご静聴ありがとうございました。